

日工會報

第29号

令和4年2月28日

発行 日立工業高校同窓会

発行者 同窓会事務局

日立市城南町2-12-1

☎ 0294 (22) 1049

FAX 0294 (21) 4591

印刷所 SATOプリント

☎ 0294 (33) 0883

会長挨拶

同窓会会長 梶山 隆範



日工会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より多大なるご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、今年度においては昨年度以上に新型コロナウイルスの対応に追われる一年であったと痛感しております。この原稿を書いている一月現在、オミクロン株の流行もあつてか、日立市の感染者もこれまでにない広がりを見せています。この広報誌が皆様の元に届くころに状況が好転していることを願うばかり

です。

昨年度は書面決裁であった総会につきまして、今年度は感染対策をした上で対面形式により開催いたしました。同窓会役員および事務局の方々を二年ぶりに広報誌に掲載しておりますので是非ご覧下さい。

在校生につきましては、昨年は八月中旬に休校措置がとられ、九月下旬から分散登校、十月から通常登校となったと聞いております。勉強面ももちろん心配ではありましたが、本校の特色である部活動の活動停止や、就職試験の対応等、一年生から三年生まで様々なところで、影響があつたと聞いております。通常の生活リズムを取り戻すだけでも大変な苦難ではあつたと思えますが、その後の部活動の各種大会での活躍ぶりや、就職試験の内定率を聞く限り、本校生徒は苦難を乗り越えて勝利を勝ち取つたものと受け取りまし

た。本当におめでとうございませう。そして今後もぜひ頑張つて下さい。

そして、いよいよ本校は本年、令和四年十月に創立八十年を迎えます。八十周年記念事業として昨年度から立ち上がった準備委員会では同窓会・PTA・教職員の代表者により現在まで五回の委員会を開催し、事業の成功に向けて議論を交わして参りました。特に式典においては、昨今のコロナウイルス関連の対応で疲弊している皆様の活力になるような内容で開催できるような準備を進めております。来年度の広報誌ではその式典の様子もお伝えできるかと思えます。この一大事業に関して、現職の同窓会会長として携われることは大変光栄であります。諸先輩方そして全同窓会員の皆様への恩返しとして、成功裏に終わるよう尽力いたします。結びに、このような状況下で

はありますが、皆様のご健康が守られますよう心よりお祈り申し上げます。同窓会会長挨拶といたします。

学校長挨拶

学校長 吉澤 和彦



同窓会の皆様には、日頃より、本校の教育活動に対し、ご理解とご協力を頂き心から感謝申し上げます。いよいよ創立八十周年を来年度に控え県内はもとより広く各界において活躍されております同窓生の皆様に深く敬意を表します。

さて、本校はもとより工業高校はこれまで、社会の様々な分野で活躍するものづくり人材を育成・輩出し、地域産業を支え、産業の発展に寄与してきました。今後その役割を果たしていくとともに、AIやIoT、ロボットなどの先端技術が社会で実装され、新たなサービスや異業種からの参入なども見られ、国においてもSociety5.0を

示し、官民一体での産業の育成を推進していることから、社会の変化に対応できる将来のエンジニアを生み出していくことが求められます。現在の社会的な状況においては、本校もこれからの専門高校に求められる方策を進めていかなければなりません。一点目は、社会に開かれた教育課程の推進です。地域産業界で直接的に学ぶことができるとなると社会に開かれた教育課程を推進していくことが重要です。二点目は、教員の資質向上です。継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要です。三点目は、施設・設備の充実です。財政支援はもとより地元企業の施設を学びの場として活用することも重要です。四点目は、進学する生徒への対応です。大学進学率が向上し専門高校における進路も多様になっていきます。五点目は、専門高校に対する理解を高めるために発信強化を行うことです。これらのことを進めることで更なる本校の発展につながるものと思えます。

今年度も、コロナ禍の中で、教育活動は変更・延期や中止を余儀なくされました。コロナ社会との共生を目指した新たな教

育活動を模索しているといった状況が続いています。部活動・学校行事・検定試験等の中止・延期等々生徒たちのストレスが増す中での適応力は素晴らしいことの一つです。そのような中でも、三年生は就職の結果など昨年以上の成果を上げ、大人への階段を上り続ける姿を誇らしげに感じているところです。まさに日工健児魂を発揮しているのだと思います。

終わりになりますが、同窓会会員の皆様におかれましては、今後とも本校及び本校生徒に対し、温かく見守っていただきませうようお願い申し上げます。同時に、皆様のご健勝・ご活躍と同窓会の益々の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

事務局長挨拶

全日制 教頭 古川 博文



今年度から赴任致しました古川と申します。同窓会の皆様、

何卒よろしくお願い申し上げます。この一年間、事務局長という立場で関わらせていただき、大変お世話になりました。

さて、一昨年度末からの新型コロナウイルス禍に今年度も振り回され続けた一年となりました。五月の遠足、PTA総会での中止に始まり、入学式の縮小、各種行事のリモート化、夏季休業の延長及びその後の分散登校等で生徒の学校生活に大きな影を落としました。特に三年生は修学旅行の中止、卒業式も縮小と巡り合わせが悪い学年となってしまいました。その中で十二月にクラス親睦会を実施し、三年生最後の思い出を作れたかと思えます。また、二年生においては感染が小康状態の期間となり、修学旅行をなんとか実施できたのは僥倖であります。このような状況下で同窓会の皆様には本校活動に多大なるご支援・ご協力をいただき誠に感謝いたします。

来年度はいよいよ創立八十周年を迎えます。コロナ禍の終息が未だ見えない中、一堂に会しての式典ができることを切に願いつつ、準備委員会を中心に開催を目指しております。同窓会の皆様の一層のご支援をお願い致します。

役員だより

同窓会相談役 小野崎久輝
(昭和25年電気科卒)

我が校の創立八十周年、誠に御目出度う御座います。

こうして、同窓会報にお祝いの挨拶が出来る幸せを、しみじみと感謝している次第です。私は昭和十九年に、第三回生として入学しました。我が校は昭和十七年に開校しておりました。今では私は最高齢者の一人となつてしまいました。同窓会の相談役として名前を載せて頂いております。ありがたいことです。顧みますと、我が校は何回もあらゆる幸運に恵まれていました。先ず、初代活躍されたいた先生方が、全員一流の教育者だった事です。私もいろいろな方々からよく聞かされて居り、又、私もお世話頂いた先生方が皆、素晴らしい、立派な先生方だった事を、身を以て教わり育てて頂いて参りました。校舎に付いても、戦前は、今の日立二高(旧 東海女学校)の旧校舎が鹿島町に存在していた事、現在の日立二高の北側隣にありました。昭和二十年の戦災によって焼失しましたが、戦後

は日立製作所の青年学校が現所在地に在った事です。又、戦災、艦砲射撃により被災しました。が、軽微であった為、そのまま使用、利用出来た事です。道路一つ隔てた山側に有った学生寮は、艦砲射撃の直撃にあつて、見るも無残な状態でした。その為、そこに入居していた学生達を中心に、死傷者も沢山出たとの話も聞かされて居りました。現場を見ると凄惨さが見てとれました。今でも瞼を閉じると、当時の事柄が走馬灯の様に思い浮かびます。私は、現在の生徒達の活躍されている話や新聞記事を見たり、猛者達の頑張っている話を聞いたり、お付き合いをしたりするのが、何よりも嬉しく感ずる毎日を送っております。私の家の近所にM君が居りますが、M君は五級位下の下級生です。今では町村合併で日立市になって居りますが、当時は、多賀郡榎形村、高原地区から三年間、我が校迄、片道十五kmの道程を雨の日も風の日も一日も休まず毎日通学をして、無事卒業された話を聞かされた時には、すごい人だと、まさに猛者に呼ぶに相応しい方だと敬意を感じました。毎日徒歩で、高原の地から、さららの里の北側に沢平という集落があります

が、その沢平を経て、獣道に毛を生やしたような山道を、神峯山とお羽黒山の間の標高三百mの峠を越え、日立鉾山の火煙突の元を通つて、日本鉱業事務所脇を抜け、更に、芝内から今の城南町校舎迄を、三年間休まずに通い通したというのですから、驚異です。毎日往復三十kmの距離を歩き通したというのです。大したものですね。御本人は現在八十五才、未だまだ元気で現役で働いて居ります。これからの人生、幸多かれと祈るばかりです。

